

29S-pm14

6年制薬学生の就職に関する意識調査

○中込 啓一¹, 林 行和²(¹武蔵野大薬,²ACRONET)

【目的】保険薬剤師、病院薬剤師の「就業意識」に続き、今回6年制薬学一期生の「就職意識調査」を実施し知見を得たので報告する。

【方法】平成24年3月卒業の武蔵野大学薬学部6年制の一期生を対象に「就職式調査」を無記名にて実施。調査項目は、①就職活動前の進路希望、②最終進路先、③進路検討で重視した事項、④実務実習後の感想、⑤就職活動前に進路を検討する上で役立った事項、⑥最終進路決定で影響した事項、⑦就職活動と進路決定の満足度、の7項目である。

【結果】回収回答数114件、データにより、相関係数、t検定、 χ^2 検定、一元分散分析、多重比較で分析した。就職活動の満足度は、82.6点と高い満足度を示した。希望していた職種に比較して実際の進路は、調剤薬局、ドラッグストアが増加し、製薬企業が減少した。進路を考える上で最も重視したのは、「自己成長ができるかどうか」約3割の学生であり、進路別の比較で差が見られた。実務実習後、約5割の学生が「自己成長ができる」と認識したが、「職場の人間関係が大変そう」と約3割が感じている。就職活動を検討する上で役立ったのは、0～5点評価で、「病院実習」4.4点、「薬局実習」4.2点、「学外会社説明会」4.3点と続いた。最終の進路決定に影響を及ぼしたのは、「自分の考え」、「採用担当者」と続いたが、どちらも進路別で比較すると差がみられた。満足度と関連する項目は特に検知できなかった。

【結論】今回の調査で学生進路決定に、「実務実習」が大きく影響されると推察された。実習先の教育担当者のもとより、職場の薬剤師、職員等、学生の進路決定に影響する可能性があることを認識する必要性が示唆される。